

「Maker Conference Tokyo 2012」 6月2日に開催決定

広がる「Maker ムーブメント」の可能性を語る、日本初のカンファレンス

コンピューター技術者向けの専門書などを発行する出版社の株式会社 オライリー・ジャパンは、「Maker Conference Tokyo 2012」を、2012年6月2日（土）日本科学未来館にて開催いたします。

アメリカに端を発した、自分自身の手でモノを作り、その成果を多くの方と共有する「Maker ムーブメント」が、ここ日本でも盛り上がりを見せています。**2011年12月に開催された Maker による DIY の祭典「Make: Tokyo Meeting 07」には、260組の出展者が作品を展示し、12,000名の方が来場しました。**

「Maker Conference Tokyo 2012」は、その「Make ムーブメント」を支える人々 (=Maker) を取り巻きさまざまなトピックをディスカッションする日本初のカンファレンスです。「Make」のファウンダー、発行人 Dale Dougherty (デール・ダハティ) による、全世界に広がる Maker ムーブメントについての基調講演、Dale Dougherty と日本の Maker たちによるパネルディスカッション、「オープンソースハードウェアの理想と現実」「オープンソースとデザイン」「モノを作る仕事を作る」といった最先端のテーマに関する、ファシリテーターとゲストを中心にした分科会で構成されています。

Maker Confernce Tokyo 2012 は、すでにこのムーブメントに参加している「Maker」の方にとって、今後の活動のための刺激と知識、さらに新しいコラボレーションを探す機会になることでしょう。また、このムーブメントに興味がある方にとっては、コミュニティの熱気に触れるための貴重な機会になるはずです。

開催概要

開催日：2012年6月2日（土）

時間：10:30-18:30（懇親会：19:00-21:00）

会場：日本科学未来館（7F みらいCAN ホールほか）

*カンファレンスのみご参加の場合、未来館の入場券は不要です。直接7Fまでお越しください。

主催：株式会社オライリー・ジャパン

運営協力：NPO 法人日本パーソナルファブ리케이션協会

参加料金：3,000円（カンファレンスのみ）、6,500円（カンファレンス+懇親会）

定員：250名

基調講演

デール・ダハティ (Dale Dougherty)

「Make」誌のフアウンダー、発行人、Maker Faire の共同創設者。ホワイトハウスから「変革の旗手 (Champion of Change) 」の栄誉を受けた。ティム・オライリーと一緒に O'Reilly Media, Inc を創設し、O'Reilly の数多くの重要な活動に対して大きな役割を果たしている。



>> TED における講演 (私たちは Maker である)

<http://www.ted.com/talks/view/lang/ja/id/1065>

※Dale 氏のインタビューもアレンジいたします。世界における Maker ムーブメントの広がりを個別にご取材いただけます。詳しくは、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

タイムテーブル

10:00 開場

10:30-10:50 ご挨拶／Make の紹介／Make: Tokyo Meeting をふりかえる (オライリー・ジャパン)

10:50-12:30 基調講演「Maker ムーブメントを先導すること・追いかけること」(デール・ダハティ)
+ パネルディスカッション (デール・ダハティ+久保田 晃弘、小林 茂、城 一裕)

12:30-13:30 昼食休憩

13:30-14:15 プレゼンテーション (公募、スポンサーなど)

14:30-15:30 分科会 (A) ※分科会の詳細は別紙をご参照ください

- ・ オープンソースハードウェアの理想と現実
- ・ オープンソースとデザイン
- ・ behind the scenes (Maker のための先端技術)

15:45-16:45 分科会 (B)

- ・ Maker ムーブメントと芸術表現
- ・ ものを作る仕事を作る
- ・ DIY Money (Maker Faire のためのお金をつくる)
- ・ DIY MUSIC (Make:カルチャーと楽器／音楽表現)

17:00-18:30 クロージングセッション

19:00-21:00 懇親会

* 内容の一部は変更になることがあります。

お問い合わせ先

株式会社オライリー・ジャパン (担当: 田村)

〒160-0002 東京都新宿区坂町 26-27 インテリジェントプラザビル 1F

TEL : 03-3356-5227 FAX : 03-3356-5263

E-Mail : info@makejapan.org

Make について

「Make」は、アメリカ初のテクノロジー系 DIY 工作専門雑誌として 2005 年に誕生しました。自宅の庭や地下室やガレージで、びっくりするような物を作っている才能あふれる人たちのコミュニティが、現在どんどん大きくなっています。「Make」は、そうしたコミュニティ同士を結びつけ、刺激と情報と娯楽を与えることを目的としています。Make は、すべての人が思いのままに、あらゆるテクノロジーを遊び、いじくり、改造する権利を称賛します。（日本語版は、オライリー・ジャパンによって 2006 年より発行されています。最新刊は vol.11。他、Make シリーズの書籍も多数刊行しています）



Maker Faire / Make: Tokyo Meeting について

Maker Faire は、世界最大の DIY の祭典です。 家族で楽しめる、発明と創造と役に立つ情報がいっぱいの展示会であり、Maker ムーブメントのお祭りです。ここでは、人々が自分で作ったものを披露し合い、作ることで学んだ知識を教え合います。出展する Maker は、技術愛好家からクラフト作家、教育者、機械いじりが好きな人、ホビースト、エンジニア、アーティスト、サイエンスクラブ、学生、作家、企業など非常に多岐にわたります。年齢も経歴もまちまちです。Maker Faire の使命は、こうした何千何万という Maker たちや Maker の卵たちを、楽しませ、知識を与え、結びつけ、刺激することにあります。最初の Maker Faire はカリフォルニア州サンマテオで開催されましたが、2011 年にサンフランシスコベイエリアで開催した 6 回目の Maker Faire には、10 万人以上もの人々が訪れました。Maker Faire の人気は年々高まり、2010 年からは、デトロイトとニューヨークでも定期的に開催されています。

日本では、「Make: Tokyo Meeting」として 2008 年より開催しております。2012 年 12 月の「Make: Tokyo Meeting 07」には、260 組の出展者が作品を展示し、12,000 名の方が来場しました。



分科会の内容

オープンソースハードウェアの理想と現実

小林 茂（情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授）／金本 茂（スイッチサイエンス）

Arduino によって多くの人に知られることとなったオープンソースハードウェア。オープンソース化によってさまざまな可能性が開拓される一方で、定義やライセンスが定まっていないことによる誤解や混乱が生じているのもまた事実です。このセッションでは、Arduino Fio、スイッチサイエンス、SparkFun Electronics、Seeed Studio などのさまざまな実例を題材に、その広がり、可能性と課題について、技術、教育、経済などのさまざまな視点からディスカッションします。

ものを作る仕事を作る

船田 巧（日本パーソナルファブ리케이션協会理事）／乙幡 啓子（妄想工作所代表）、加藤 良将（メディアアーティスト）、山本 俊一（山本製作所/tkrworks）

Make: Tokyo Meeting でお馴染みの出展者をゲストにお招きして、インディペンデントなものづくりを仕事にする面白さと難しさについて語っていただきます。3 人の共通点は、自ら作ったものを自ら販売して、直接ユーザーに届ける活動に注力している点です。直面している課題と、これからの展望を、参加者全員で共有することが目標です。

オープンソースとデザイン

久保田 晃弘／緒方 壽人（ON THE FLY Inc.）

オープンソースやクリエイティブ・コモンズ時代に、デザインは一体どのような役割を果せるのでしょうか。オープン化することによって分散していくことと、統合したりミニマルにすることから生まれる美は、どのようにすれば両立するのか、あるいは両立しないのか。デザイナーにとってのオープンソースを、さまざまな観点から議論できれば、と思います。

Maker ムーブメントと芸術表現

城 一裕／松井 茂（詩人、東京藝術大学芸術情報センター）、毛利 悠子（美術家）

このセッションでは、ローマ数字の I、II、III のみからなる純粋詩や、毎日新聞の天気予報からなる量子詩を展開する一方で、デジタルファブ리케이션の創造力を考察し続けている松井茂、拾ってきた楽器やサボテンから電磁波まで様々なものを作品の素材とし、それらが繋がり合う空間を展開してきた毛利悠子、の 2 人をゲストに迎えます。自らの手でモノを作り、その成果を共有する、という意味で、共通点があるような、また無いような、在るような、Maker ムーブメントと芸術表現、ゲストとの対話を通じて浮かび上がるであろうその差異を手がかりとして、新しい“知”のあり方を参加者とともに探ります。

behind the scenes

城 一裕／石橋素（エンジニア／アーティスト・4nchor5 la6/Rhizomatiks/DGN）、真鍋大度（アーティスト／プログラマ／デザイナ DJ/VJ/作曲家・Rhizomatiks/4nchor5 la6）

このセッションでは、クライアントワークから自主的なプロジェクト、さらには製作スペース“4nchor5la6”（アンカーズラボ）の運営に至るまで多岐にわたる活動を繰り広げる、石橋素、真鍋大度の二人をゲストに迎え、制作活動の舞台裏の紹介を通じて、openFrameworkから生体センサー、kinectから工業用ロボットアームに至るまで、様々な同時代のテクノロジーを駆使するにあたっての産みの苦しみ、そして喜びを参加者とともに話し合います。

DIY Money (Maker Faire のためのお金をつくる)

久保田 晃弘／小町谷 圭 (メディア・アーティスト)

経済の情報化が進む中、このセッションでは逆に、物質としてのお金について考えてみたいと思います。例えばどこかの（例えば Make の）コミュニティ内の地域通貨として、硬貨の形状データが Thingiverse のようなオープンなサイトから CC ライセンスで提供されていて、誰もがそこからデータをダウンロードして 3D プリンタでお金をつくれる、つまり誰もがオープンな造幣局になることができれば、一体どのような経済が実現するのでしょうか。こんな DIY Money を次の Maker Faire でぜひ実践してみたいと思います。

DIY MUSIC (Make:カルチャーと楽器/音楽表現)

The Breadboard Band (原田 克彦、大石 彰誠、斉田 一樹) / 坂巻 匡彦 (KORG 商品企画担当) 、高橋 達也 (KORG 開発担当) 、武田 元彦 (電子楽器/製造販売 beatnic.jp 代表) 、菅野 創 (アーティスト)

音楽や楽器をつくることと Make:ムーブメントはどのように関係しているのでしょうか？ Make Tokyo Meeting ではこれまで DIY MUSIC として音楽イベントを行ってきました。今回のカンファレンスでは、Make:カルチャーと音楽の関係について、サウンドイベントのこれまでとこれから、さらに自作楽器の現状からオープンソースハードウェア/デジタルファブリケーションと楽器制作、ビジネスとしての楽器製品開発との関係について、様々な側面からディスカッションします。

Make:Tokyo Meeting07の様子



